

シンポジウム

建築基礎・地盤に関する研究開発の推進をめざして

# 話題提供(7)

## 公的研究機関の立場から

建研 構造研究G

国総研 建築研究部

新井 洋

柏 尚稔

# 建築基礎・地盤に関する 我が国の公的研究機関

- L 建研（建研十国総研建築）が唯一の存在。
- 大学の研究との違い：法律や設計の基準に触る。実建設業との連携。社会ニーズに基づく課題。やりたいこと以外の課題も多い。
- 国の礎は人。人なくして研究も何も無い。当たり前のこと。

# L 建研の現有戦力：自分を知る (定年前の博士号所持者)

- 2人. Google Scholar (10/18現在)

氏名(年齢)	被引用数	h-index
新井 洋(47)	748	11
柏 尚稔(37)	73	5

- ちなみに

中島先生	6228	43
時松先生	9187	40
田村先生	919	13

# 1978年宮城県沖地震～ 1995年兵庫県南部地震の頃の 建研の主な研究者（順不同・敬称略）

- 阪口 理
- 大岡 弘
- 水野 二十一
- 平出 務
- 中田 慎介 ※コンクリート杭
- 杉村 義広
- 二木 幹夫
- 飯場 正紀
- 田村 昌仁

# 黎明期～1964年新潟地震の頃の 建研の主な研究者（順不同・敬称略）

- 大崎 順彦 #東大航空学科卒。竹山謙三郎（2代所長）にスカウトされ建研へ。ノースウエスタン大学留学時に地盤工学の道へ。
- 小泉 安則 #東大航空学科→応用数学科。ノースウエスタン大学留学時に地盤工学の道へ。
- 川崎 孝人
- 伊藤 幸爾郎
- 岸田 英明
- 吉成 元伸
- 和泉 正哲 ※動的相互作用

#吉見先生HP <http://yoshimi-yoshiaki.la.coocan.jp/amakudari.html>

# 建築基礎・地盤の研究者に 広く求められること

- 【必須】 基礎地盤の豊富な知識を獲得し、活用できる技術を獲得する。
- 【必須】 建築への適用・応用を常に意識する。
- 上部構造と基礎地盤の両方を深く理解でき、問題を解決できる。
- 静的問題（長期）と動的問題（短期）の両方に取り組むことができる。
- 土の挙動の解明に突き進む。 （地盤工学）

# L 建研の研究者に求められること1

- 国力から生産可能な建物と外乱ハザードとの押し引きのバランスから決まる性能と荷重。この認識。
- 法律や設計の規基準は安全のためのもの。その線を引くには、現象理解や技術について高度な学識経験が必要。
- したがって、研究者として高い能力と広い対外活動が求められる。博士号は最低限のパスポート。

# Ⅰ 建研の研究者に求められること2

- 一方で，法律や設計の規基準などに考えが捕らわれることは，現象理解や技術について高度な学識経験を身に付けたり，そのために必要なinnovativeな研究を自由でoriginalityの高い発想の下に行って成果を蓄積していく上で，間違いなく妨げとなる。
- この辺りのバランスを，どう考えるか。今のⅠ建研での若手育成において，現職側の課題でもある。

# まとめ

## (L建研の基礎・地盤から)

- 現職2人とも、ある程度の即戦力として入所。若い時代は、他の大学や研究機関で過ごした。建研育ちではない。
- かつての建研には優秀な研究者が多かったが、今のL建研には若い人が多くいない。若い人が育っていない。
- L建研で若手育成は難しいのか？  
→ 打破したい。若くて優秀な人材を、切に希望したい。